第３回横浜市水道事業の将来を考える懇談会の概要

１　懇談会の日時及び場所

平成 26 年９月４日（木）10 時～12 時　　横浜市研修センター702・703 号室

２　出席者

(1) 懇談会会員

石井　晴夫　　氏（東洋大学　経営学部経営学科　教授）
今泉　マユ子　氏（横浜市水道局水のマイスター）
臼杵　ひろみ　氏（株式会社ファンケル　社長室長 兼 CSR 推進事務局長）
外山　薫　　氏（横浜災害ボランティアネットワーク運営委員）
長岡　裕　　氏（東京都市大学　工学部　教授）
山崎　洋子　　氏（作家）
山藤　竜太郎　氏（横浜市立大学　国際総合科学群　人文社会科学系列　准教授）

※欠席者

浅見　真理　　氏（国立保健医療科学院　生活環境研究部　上席主任研究官）
佐藤　裕弥　　氏（株式会社浜銀総合研究所　地域戦略研究部　地域経営研究室　室長）

（横浜市水道局　水道局長、全部長（※副局長、給水部長を除く）、
経営企画課長、計画課事業計画係長）

３　懇談テーマ

(1)　横浜水道の歴史
(2)　環境への取組

４　主な意見等

(1) 横浜水道の歴史

・横浜は､小さな村が開港を機に大都市に発展し､世界に誇れる安全な水道水の日本発祥の地。すごくドラマチックなので、アニメなどにしてみて、子供たちに誇りを感じてもらいたい。
・日本で一番長い歴史を持つ中で、様々な困難を乗り越えてきた。事故対応の考え方ややり方を、先輩ＯＢ達に話を聞けるうちにケーススタディーとしてまとめるなど、全国の水道事業体のお手本として残し、未来につなげるべき。
・品質管理とリスク管理だけでは、競争社会の中では生き残れない。市民に近づくための水回り商品の開発など、新規事業が必要。
・水道局の弱みは、市民にこのような歴史があまり知られていないこと。水道の現状や、やらなければならないことの理由を市民にもっと理解していただければ、たとえ値上げをするとしても、「今後のことを考えたら仕方がない」と、納得していただけるのではないか。
・市民に興味を持ってもらえるように水道の歴史を伝えることは、とても大切。
・普通の人は、水が出ることが当たり前だと思っている。ありがたみがない。そこをきちんと理解してもらうためにも、過去を振り返り伝えていくことは大切。

(2) 環境への取組

・何といっても上流取水が良いのではないか。環境への取組としての基本だと思う。神奈川県内の水道事業体で議論してほしい。

・横浜は環境未来都市であることをもっと市民にＰＲすべき。広大な水源林を保有しているのは東京都と横浜市だけであり、ＣＯ2 削減に大きく貢献していることをもっと知ってもらうべき。

・節水の視点から、ガスは漏れていると自動停止するが、水道もそのようなことが出来ないか。

・ミストはまだまだ冷却効果が少なく、もう少し技術発展の余地がある。水温の活用では、下水道も熱利用に注目している。

・床暖房という仕組みがあるので、床冷房というのもあっても良いのではないか。